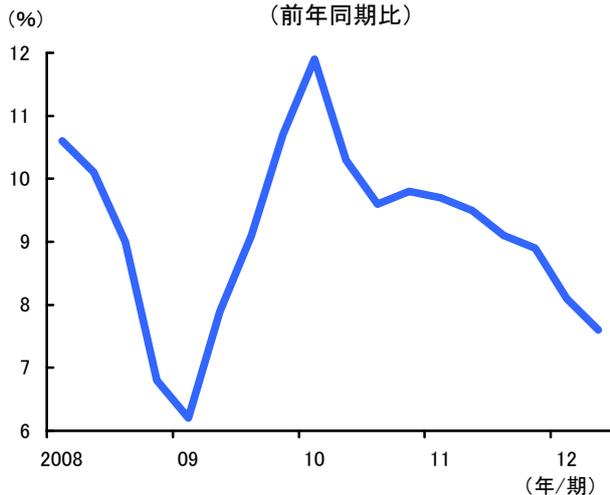


即効性重視にシフトする中国の経済政策 ～固定資産投資主導で成長率は持ち直し～

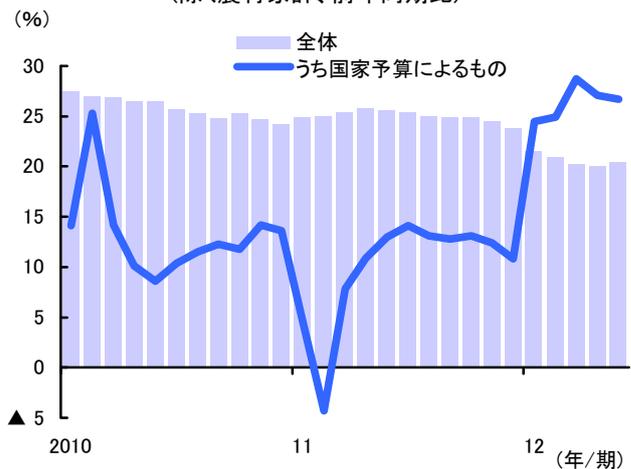
- (1) 中国の経済成長率は4～6月期に前年同期比7.6%まで減速(図表1)。政府の想定よりも減速が急ピッチであるため、政府は消費主導経済への構造調整の優先度を引き下げ、即効性のある景気対策に重点を移す見込み。
- (2) 今後予想される景気対策を整理すると、以下の3点が中心に。
 - ① 公共投資の拡大。2012年入り後の国家予算による投資は大幅に拡大(図表2)。少なくとも年末までは、年率3割増の拡大ペースが続く見通し。
 - ② 企業の投資プロジェクトの承認加速。政府は2008年から凍結してきた国有企業の宝鋼と武漢鋼鉄の製鋼所建設を認可。今後も、鉄道などの投資プロジェクトの承認を加速する公算大。
 - ③ 一段の金融緩和。インフレ沈静化に伴い、窓口指導の緩和や預金準備率の引き下げ(年内に0.5%ポイントの引き下げを3～4回)を実施する見込み(図表3)。
- (3) 輸出は今後も弱含む可能性があるものの、固定資産投資の増勢が高まる結果、中国経済の失速は回避される公算大。実際、製造業の景況感と利益率は改善(図表4)。成長率は4～6月期を底に、7～9月期には8.0%前後まで持ち直す予想。

(図表1)実質GDP成長率の推移
(前年同期比)



(資料)国家統計局

(図表2)固定資産投資の推移
(除く農村家計、前年同期比)



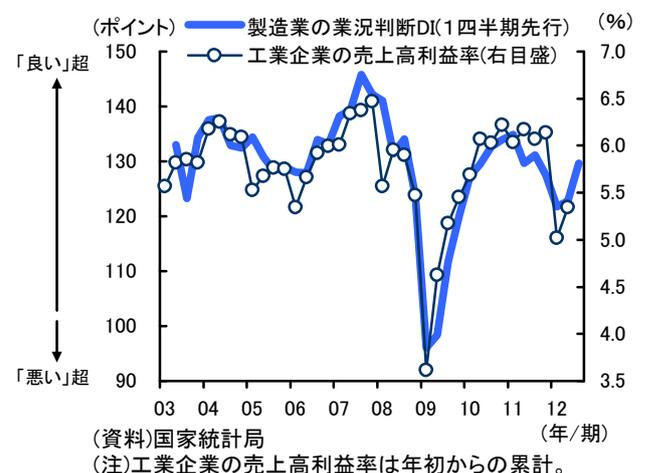
(資料)国家統計局
(注)年初からの累計。1月は非公表。

(図表3)CPI上昇率と預金準備率



(資料)国家統計局、中国人民銀行

(図表4)製造業の景況感判断DIと
工業企業の売上高利益率



(資料)国家統計局

(注)工業企業の売上高利益率は年初からの累計。